

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Vol.09
2022.04

Kariya city Museum of History NEWS

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report [報告] -----	3
Information [ご案内] -----	4

NEXT EXHIBITION 次回展示

有料展

企画展「伊勢物語とかきつばた」

開催日 2022年4月23日(土)～6月5日(日)



▲富士見業平料紙箱
一蓋裏 (斎宮歴史博物館蔵)



▲伊勢物語絵巻〔部分〕(斎宮歴史博物館蔵)



▲伊勢物語 (当館蔵)

刈谷市の花であり愛知県の花でもある、かきつばた。この花を有名にしたのは、平安時代に書かれた伊勢物語第九段の「八橋」です。文学史上有名な伊勢物語ですが、長い歴史の中でどのように受け継がれてきたのでしょうか。

長らく公家社会の間で読み継がれてきた伊勢物語ですが、江戸時代に入ると庶民の間にも広まり、刊本のほかにパロディ本も多く作られ、一種の伊勢物語ブームとも言える状況が生まれました。

本展では絵巻や注釈書、絵画や工芸品なども含め約50点の資料から、伊勢物語の世界の広がりをご紹介します。

※記載内容は予告なく変更することがあります。

『^{いまよう}風俗伊勢物語』

「伊勢物語」と「源氏物語」、どちらも平安時代の王朝文学を代表する作品ですが、現代の人々がどちらにより親しんでいるかという点、「源氏物語」の方に軍配が上がります。例えば「源氏物語」は、たびたび映画化やドラマ化がされています。また漫画の名作『あさきゆめみし』などもあり、広くストーリーが知られています。一方で「伊勢物語」は、作品全体の長さ（「源氏物語」のおよそ35分の1）や短編の集合体という構成もあってか、映画化などはほとんどされていません。

しかし、江戸時代以前に書かれた「伊勢物語」の写本は、「源氏物語」より圧倒的に多いです。これは先に述べた作品全体の長さもありますが、伊勢物語が広く読み継がれていたことの証明でもあります。

「伊勢」も「源氏」もともに、公家社会の中で読み継がれてきた物語ですが、江戸時代に入ると庶民にも広がっていきます。理由として第一に挙げられるのは「出版文化の広まり」です。これによって識字率も上昇し、庶民の間でも娯楽として物語が読まれるようになります。そのような中で「伊勢物語」をインスパイアした「パロディ本」も作られるようになりました。

「伊勢物語」のパロディ本の代表作は、江戸時代初期に成立した「仁勢物語」です。「伊勢物語」が「むかし男ありけり」で始まるのに対し、「仁勢物語」は「をかし男ありけり」に始まり、全125段全てにおいてもじりが行われています。

この後パロディ本は、「伊勢物語」の中身により踏み込んだ内容となっていきます。例えば「おかげまゐり伊勢物語」という作品は、伊勢神宮へのお蔭まゐりの道中記に伊勢物語の要素を組み込んだもので、「伊勢物語」を（読んでいけばより楽しめるのはもちろんのこと）読んだことのない読者でも楽しめる内容になっています。

ここで紹介する「風俗伊勢物語」も「伊勢物語」のパロディ本の1つです。「風俗」とあることから、現代（＝江戸時代後期）流の伊勢物語をイメージしていると考えられ、伊勢物語の場面が随所に登場します。主人公は「たき口左衛門春風」とその子「八十氏」、どちらも風流な優男です。

「伊勢物語」の九段八橋に当たる場面が登場するのは4巻目。色男の「八十氏」が院から江戸・隅田川の景色を写し取って描くように命を受け、京から江戸へ下ります。その途中、「八橋の長者」がいる三河国八橋に立ち寄ります。



▲ 風俗伊勢物語 巻4（慶應義塾図書館蔵）

この長者は大変な富豪で、宿所で八十氏をもてなします。八橋の長者には一人娘の「かきつばた」がいますが、八十氏に会わせることができません。結果的に八十氏は、かきつばたの侍女であった「あやめ」に恋をしてしまい、ついには一夜限りの深い仲となってしまいました。八十氏は東下りの途中で、院からも命を受けての旅路。あやめとは別れるほかになく、泣く泣く二人は離れ離れとなってしまいました。

この作品には和歌も多く登場します。「唐衣…」で有名なかきつばたの折句は「かずかずの きみがなさけに つまされて はづるばかりの たはれことのは」に変わり、またかきつばたの花の美しさに対しても「ゆかりある いろにもふかきかきつばた うつらふかけを みすにやあらなん」と詠んでいます。

江戸文学の奥深さを感じさせるこの作品は、企画展「伊勢物語とかきつばた」において展示します。また、江戸時代の文学作品は字が細かく仮名も多く使われているため、読みづらく大変ですが、この「風俗伊勢物語」の八橋の部分に関しては、「伊勢物語とかきつばた」展示図録の付録として翻刻を掲載いたします。内容について深く知りたいと思った方は、ぜひお買い求めください。

（当館学芸員 長澤慎二）

REPORT 報告

企画展「戦時下の刈谷—人びとの暮らしと記憶—」

2021年7月17日(土)～8月29日(日)

太平洋戦争の時期に刈谷の人びとがどのような生活を送り、そして敗戦を迎えた後、戦争の時代を振り返っていったのかを、刈谷市内に残された資料を中心に展示を行いました。

第1章では「軍隊での生活」として、軍服や千人針といった兵士が身に着けるものや、出征の際に贈られた寄せ書き入りの日章旗などを紹介しました。また第2章「銃後の生活」では、戦地に赴かない人びとの生活に焦点をあて、金属供出や戦時国債などを展覧しました。さらに、当館だけでなく郷土資料館でも、本展にあわせて戦中や戦後の学校で使われていた教科書を展示しました。



関連イベントとして、戦中・戦後を実際に生きぬいた柘植豊徳氏と山田孝氏をお招きし、座談会を開催しました。貴重な当時の体験をお伺いし、身につまされる思いでした。そのほか、読み聞かせ会や、ミュージアムシアター「この世界の片隅に」の上映会などを開催し、多くの方に興味を持っていただけたと思います。

本展は、4,000人を超える方にご来場いただきました。ご協力いただいた皆様、ご来場いただいた皆様に、改めてお礼申し上げます。

(当館学芸員 永井優香子)

企画展「豊臣秀次—刈谷に新時代をもたらした関白殿下—」

2021年10月9日(土)～11月21日(日)



本展では、尾張と西三河の一部の領主で関白も務めた豊臣秀次についてその生涯と事蹟について知ることのできる資料を展示しました。

秀次所縁の慈舟山瑞泉寺(京都市)から「御釜」や「秀次公縁起」(京都市国立博物館寄託)、「瑞泉寺裂」(同館寄託、京都府指定)などを借用しました。秀次が、近江八幡時代に信長の楽市令を修正して出した「八幡山下町中掟書」(近江八幡市蔵、重要文化財)や、秀次配下で刈谷での実地支配・検地を進めたことを示す「津田宣久判物」「国松久次書状」(当館蔵、刈谷市指定)などにより、秀次は統治・支配の部分で評価できる人物だということを紹介しました。

関連イベントでは、愛知教育大学能楽部の協力による能楽体験のイベントが新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。講演会は「豊臣秀次と尾張・三河」(講師: 播磨良紀氏)と「秀次切腹と豊臣政権」(講師: 谷徹也氏)の2本を開催しました。いずれも申し込み多数で抽選となりましたが、感染状況が改善したこともあり定員を50人から70人に増やしてお聴きいただきました。また、展示資料について、当館学芸員による展示説明会やギャラリートークを開催しました。

改めて資料をご出品いただいた皆様や、調査にご協力いただいた方々にお礼申し上げ、「豊臣秀次—刈谷に新時代をもたらした関白殿下—」の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

(当館学芸員 山下智也)

INFORMATION ご案内

2022年度 企画展スケジュール

4月23日(土)～6月5日(日)

「伊勢物語とかきつばた」

7月16日(土)～9月4日(日)

「TSUNAGU-甦るモノたち-」

10月8日(土)～11月20日(日)

「深溝松平家展一家忠・忠利・忠房と刈谷」



▲ 東海道五十三次 池鯉鮒 (当館蔵)

簡単工作

受付日時：毎週土曜日、日曜日、祝日の午前9時～午後4時30分

4月～6月のメニュー

- ・折り紙「かきつばた」 無料
- ・はにわストラップづくり 300円



特別メニュー (4月16日～5月8日期間限定)

- ・こいのぼり 100円



簡単工作のポイントカードができました

工作をしてポイントを集めた方全員に
景品をプレゼントします。

アンケート

ご来館時にアンケートの回答をしていただいた方に、オリジナル缶バッジまたは缶マグネットをプレゼントします！



対象期間などは、当館ホームページをご確認ください。

カレンダー

2022

4	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	

5	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					

6	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
19	20	21	22	23	24	25	
26	27	28	29	30			

7	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

伊勢物語とかきつばた

TSUNAGU-甦るモノたち-

休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道

JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷市駅

バス

刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

車

伊勢湾岸自動車道
名古屋南ICまたは豊田南ICから
約20分

※ 記載内容等に変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、またはTwitterをご確認ください。

※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL: <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式 Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。